

## 事業群評価調書(平成28年度実施)

基本戦略名	10 にぎわいと暮らしを支える社会基盤を整備する	事業群主所属	企画振興部新幹線・総合交通対策課
施策名	(1) 九州新幹線西九州ルートなどの人流・物流を支える交通ネットワークの確立	課(室)長名	早稲田 智仁
事業群名	④ 24時間化の実現などによる長崎空港とその周辺の活性化	事業群関係課(室)	

### 1. 計画等概要

#### 【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)】

##### 《長崎県総合計画チャレンジ2020 本文》

長崎空港の24時間化を目指して運用時間延長に向けた活動を行います。また、空港を活用した施設の整備や仕組みづくり等により空港周辺の活性化を図ります。

事業群指標	最終目標 (H32)	基準値 (H26)	実績 (H27)	達成率	【進捗状況の分析】
長崎空港利用者数	334万人	300万人	310万人	—	昨年7月に「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録されたことが追い風となり東京線のJALウインターダイヤにおいて1便増便するなど順調に推移したほか、大阪線も増加となり国内線利用者数が増加した。 また、国際線については、訪日需要の高まりによる上海路線、チャーター便の増加があったが、昨年10月からのソウル線の運休により韓国からの訪日客が減少した。
事業群の進捗状況					

#### 【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)の分析】

##### 《取組項目及び現状と課題》

###### i) 国際定期航空路線の維持・拡大

- ・上海線の維持・拡大を図るため、中国東方航空への着陸料等の支援を実施している。上海路線は利用率が50%前後であるため、利用者数の増加と収益性の向上が必要である。
- ・路線利用者の増加と路線の収益性を上げるため、アウトバウンド客の増加策を実施している。中国人の団体旅行利用者が多いため、中国からのFIT(個人旅行者)や日本からのアウトバウンドを増加させることが必要である。
- ・ソウル線については、平成27年10月から運休していたが、早期再開に向けて各航空会社への誘致に取り組んだ結果、平成28年10月からエアソウル(LCC)の就航が決定した。今後、路線の安定運航のため、利用促進策に取り組む必要がある。

###### ii) 国内線の路線拡大の実施

- ・長崎路線の利用促進を図るため、航空会社と連携して路線のPRや集客対策を実施している。
- ・国内旅客の増加を図るため、国内空港から新規路線の誘致を実施していくほか、関西空港からの増便化など、国内路線の拡大を図って行く必要がある。

###### iii) 長崎空港の利便性を高めるため空港の24時間化への取り組み

- ・運用時間の延長を行うには、深夜早朝帯に運航する航空会社が必要であるため、深夜・早朝帯を利用する航空会社の誘致を実施している。
- ・長崎空港の24時間化に係る具体的な課題を解決するため長崎空港24時間化推進委員会を開催し、協議を行っている。
- ・人流だけでなく、物流があることによって路線の活性化が図られるため、貨物の増加対策を実施している。

## 2. 27年度取組実績

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					事業の成果等	中核事業		
			H27実績	一般財源	人件費(参考)	事業対象	事業内容 (事業の実施状況)	指標	主な目標	H27目標	H27実績	達成率				
			H28計画	一般財源	人件費(参考)					H28目標	—	—				
取組項目 i	航空路線利用促進事業(アウトバウンド対策)	(H28新規) H28-	117,023	117,023	24,168	航空会社 旅行者	官民一体の組織である長崎県空港活性化推進協議会を通じて航空会社に対し着陸料等の助成を実施し、路線の安定運航を図ったほか、利用率の向上を図るため各種支援策を行うことにより長崎空港を利用した誘客を促進した。	活動指標	国際航空会社・海外旅行社等との実務協議(回)	20	90	450%	上海線については訪日観光ブームによりH26年度より32.8%の増となった。ソウル線についてはH26年度の12月～3月に毎日運航していたが、H27年度は10月から運休となったため減少し、目標を達成できていない。	○		
	新幹線・総合交通対策課		132,772	132,772	8,065			成果指標	国際定期路線利用者数(人)	52,000	39,382	75%				
取組項目 ii	航空路線利用促進事業(国内対策)	(H28新規) H28-	12,776	8,238	16,112	航空会社 旅行社	官民一体の組織である長崎県空港活性化推進協議会を通じて、国内定期路線、離島路線の利用促進対策を実施し、長崎空港の利用者増を図った。	活動指標	国内航空会社等との実務協議(回)	—	15	—			長崎空港に就航している国内航空会社と協議を行い、長崎路線の利用促進対策の実施に対し助成を行った。関西での航空路線のPRや旅行商品の造成など、関西地域での路線周知を図った。	○
	新幹線・総合交通対策課		22,819	22,819	16,130			成果指標	長崎空港国内線利用者数(千人)	2,932	3,057	104%				
取組項目 iii	長崎空港24時間化推進事業	(H28新規) H28-	—	—	—	航空会社	長崎空港の24時間化を実現するため、長崎空港24時間化推進委員会を立ち上げ、航空会社等と協議を実施する。	活動指標	航空会社・貨物事業者等との実務協議(回)	—	—	—	—	○		
	新幹線・総合交通対策課		58,784	58,784	8,065			成果指標	運用時間延長手続きの実施	—	—	—				

## 3. 検証及び問題点の抽出

### 【課題解決に向けて取り組んだ事務事業の実績の検証】

i) 上海線については、中国大手旅行社とタイアップして中国からの訪日需要に対する長崎路線の利用促進対策を実施し、前年度比32.8%増の利用者増を達成することができた。

- ・しかしながら、中国人団体観光客だけでは、路線の安定運航にらず、路線の収益力も向上しないため、旅行単価の高い利用者を増やす必要がある。
- ・また、ソウル線については運休の計画を察知した段階で、何度もソウルに向き、運休の見直しを求め解決策を協議したが、航空会社の福岡路線への機材回しの関係上運休となった。
- ・韓国からの訪日需要に対応するため、ソウル便早期開設を目指して積極的に誘致活動を実施した結果、平成28年10月からエアソウル(LCC)の就航が決定した。

ii)

- ・長崎空港の利用者数については、全国和牛能力共進会、長崎しおかぜ総文祭、長崎がんばらんば国体、大会の実施や長崎新三大夜景認定、明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録などにより6年連続で増加してきている。
- ・今後も、長崎空港の利用促進を図り、活性化を実現していくためには、国際路線だけでなく、国内路線の誘客対策も実施する必要があり、長崎路線に就航している航空会社と協議しながら、路線のPR等実施していく必要がある。
- ・また、新たな地域からの新規路線の就航促進や、関西路線の増便化を実施していくことで、長崎空港の利用者数の増加を図っていく必要がある。

iii) 長崎空港の活性化対策については、空港40周年の記念事業を長崎空港ビルディングと協力して実施し、広く県民に周知を図った。

- ・長崎空港の利便性を高め、利用者の増加に伴う県内経済の活性化を図るため、長崎空港の24時間化への取り組みを行った。24時間化に向けた空港の各課題を解決するため、経済界、航空業界、観光業界、交通・運輸業界の代表を委員とした長崎空港24時間化推進委員会を立ち上げ、協議を実施した。
- ・空港の運用時間を延長するためには深夜・早朝帯にフライトする航空会社が必要であるため、航空需要の掘り起こしを行い、航空会社の誘致を実現することが一番の課題となっている。



#### 4. 29年度実施に向けた方向性

【問題点解決に向けた方向性】	【個別事務事業の見直し】			見直し区分
	事務事業名	事業構築の視点	見直しの方向	
i) 国際定期航空路線の維持・拡大 上海路線及びソウル路線もインバウンド主体の路線であり、両国からの団体旅行利用者が多いため、アウトバウンドを利用者等を増やし、路線の安定運航を目指す。	航空路線利用促進事業(アウトバウンド対策)	③	平成28年度よりインバウンド・アウトバウンドそれぞれの集客対策を効果的に実施するため、インバウンド対策等の業務を観光振興課へ移管した。アウトバウンド対策としては、これまで実施していたグループ助成や販売促進費助成に加えて、平成28年度からは上海線においてビジネス目的助成を実施、ソウル線においては航空会社と協議のうえ利用促進策を講じる。	改善
ii) 国内線の路線拡大の実施 国内線の路線数の拡大に努める。	航空路線利用促進事業(国内対策)	③	国内線の利用促進事業については平成28年度より観光振興課へ移管された。新規路線の誘致、路線の増便化については、各航空会社と協議しながら誘致を実施していく。	現状維持
iii) 長崎空港の利便性を高めるため空港の24時間化への取り組み 運用時間を延長するには深夜・早朝帯をフライトする航空会社が必要であるため、航空会社の誘致に努める。 運用時間延長に対する各課題を解決するため、経済界、航空業界、観光業界、交通・運輸業界の専門家を代表とした委員会で協議を進める。	長崎空港24時間化推進事業	②	委員会での意見を参考にしながら、航空会社の誘致等に努めていく。	改善